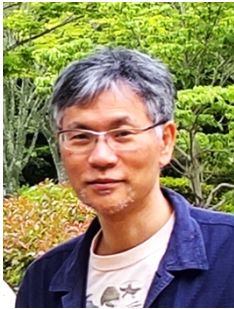
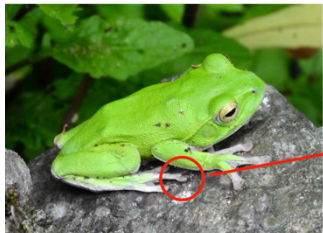



ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI プログラム概要

研究機関名	広島大学				
プログラム名	カエルの樹上性の進化的起源を、現在のカエルの指先にある不思議な骨から紐解く				
先生(代表者)	田澤 一郎(たざわ いちろう)・両生類研究センター・助教				
自己紹介	<p>こんにちは。実施代表者の田澤です。日頃は両生類の変態の仕組みと進化を研究しています。プログラム名にある「不思議な骨」も変態過程で現れますが、木に登るカエル限定です。2億年のカエルの歴史の中でカエルの木登りがいつ始まったのか、この小さな骨から紐解きましょう。たくさんのカエルたちに会えます！透明骨格標本を作る方法も学べます！</p>				
開催日・募集対象	2026年8月22日(土)	受講対象者	高校1・2・3年生	募集人数	10名
集合場所・時間	広島大学理学部E棟玄関前 (理学部ロータリー近く)		(集合時間)	9:15~9:30	
開催会場	広島大学両生類研究センター 住所: 〒739-8526 広島県東広島市鏡山 1-3-1 アクセスマップ URL: <a href="https://amphibian.hiroshima-u.ac.jp/access/">https://amphibian.hiroshima-u.ac.jp/access/</a>				
内 容					
<p>一部の現生カエル種には、全ての指の第一関節に「挿入骨格要素 intercalary element (IE)」という耳慣れない名前の骨が存在します。IEは吸盤を使った木登りの役に立つと考えられています。木に登る種は現在いろいろな科に存在し、その殆どがIEを持っています。現在は樹上性ではないカエルを含めた多くのカエルの現存種の共通祖先は、ひょっとしたらその昔、樹上で生活していたのかもしれませんが。私は科研費を使って、IEの進化的起源を探るために様々なカエルの指の発生過程を比較しています。この研究では「透明骨格標本作成」や「組織切片の染色」という古典的な手法が、強力な方法として活躍します。高校生でも利用可能なこれらの手法で最新の研究テーマに迫ることのできる楽しさを、受講生の皆さんに体感してもらいたいと思います。また、生物の内部構造とその変化を、レンズ以外の何も介さず直接見る感動も、是非体験してもらいたいと思います。この研究は、ある高校生が「こんな骨が見つかったのですが」と私のところに相談に来てくれたことで始まりました。そしてその高校生が実際に実験をしていくつかの結果を出してくれました。このような経緯のある本研究は、これから大学に入る若い方々にとって、身近に感じられると思います。</p>					
					
持ち物	特記事項				
筆記用具	昼食の支給はありません。持参して会場近くの休憩室でとることが可能です。実習では生体ではなく固定標本(野外採取個体由来および飼育個体由来)を用います。				